

韓国薬学研修報告 ～韓国の調剤薬局～

平野 友香

5年 11A131

概要

2016年8月17日(水)～2016年8月20日(土)、韓国・東国大学薬部で海外研修がおこなわれた。本学から5年生4人・4年生2人・3年生4人が参加し、東国大学本学・東国大学薬部・東国大学病院・調剤薬局・韓方市場・韓方博物館を見学した。その中から、調剤薬局についてまとめた。

調剤薬局

今回見学させていただいた調剤薬局は、東国大学の門前薬局だった。1日に持ち込まれる処方箋量について伺ったら約100枚で、そのうちの90%の処方箋が東国大学からのもので残りの10%の処方箋がほかの病院のものと教えていただいた。

調剤薬局では、600種類の多様な薬があった。また、OTC薬品も取り扱っており、それらを含めると約800種の薬が薬局にあった。

東国大学病院は、ジェネリック医薬品を使わないためほとんど置かれていなかった。薬局の人に話を聞いてみると、私立の病院ではオリジナルが使われることが多くジェネリック医薬品はあまり使われないということだった。

また、OTC薬品は薬局のほとんどが個人経営ため、運営している薬剤師が決めるということだった。そのため、店舗ごとにおいてある薬品が違うともいっていた。

調剤室の中に入れてもらい、見学をさせてもらった。

錠剤の多くが、PTPシートではなくボトルに入っており、驚いた。

また、軟膏のチューブや吸入器が大箱に入れた状態で棚に置いてあり、日本とは違っていたので驚いた。

調剤室をみまわしてみると、日本の調剤薬局に置かれている機械がいくつかあった。

どこの国でも似たような機械が使われているのだなと感じた。

韓国では、薬が処方されると国の処方監査機関がその

処方箋をパソコンで毎日見ているということだった。例えば重複処方があったら、投与するか投与をしないのか決めていているということで、国が監査しているということが分かった。



また、薬剤師が処方箋をみておかしいなと感じたら、すぐに医師に電話をして確認することもあるとも聞いていた。この点は、日本と同じだと感じた。

総括

韓国と日本の調剤薬局は、疑義照会・OTC医薬品の販売・調剤時に用いる機械はほとんど同じだった。しかし、処方監査・薬歴の管理方法はことなっていた。前文にある2つの異なる部分は、これから取り込んでいけたら日本の課題である医療費削減につながるのではないかと感じた。

感想

薬局について詳しく書いたが、病院・韓方市場・韓方博物館などといった訪問先はどこも楽しくとても興味深かった。

また、現地の学生と交流した際には英語の必要性を痛感した。

今回の研修でとてもたくさんを感じ考え気づき学ぶことができよい経験になり、研修に参加できてよかったと思う。

